

東北海区沿岸水温予報(2007年)

海域	経過 (9~11月)	現況(11月下旬~ 12月上旬)	見通し (12~2月)	見通しの背景	特異現象 (漁海況)
三陸北部 (青森県太平洋沿岸; 青森水研発表)	9月 津軽暖流域の各層最高水温は0m層及び100m層でやや高め 尻屋崎東方への張り出しはかなり強め 沿岸定地水温 9月 平年並み 10月 平年並み 11月 平年並み	津軽暖流域の各層最高水温は0、50、100m層ともにやや高め 尻屋崎東方への張り出しは平年並み 沿岸定地水温 12月上旬 平年並み	津軽暖流域の各層最高水温は平年並みで推移する 尻屋崎東方への津軽暖流の張り出しは平年並みからやや弱めとなる	対馬暖流の流勢は9月から11月は平年並みだったが、12月は流れの中心が沖側に移り、かなり弱くなった。 親潮第1分枝は弱めで、今年並みからやや弱めと予想されている。	
三陸中部 (岩手県沿岸; 岩手水研発表)	9月 表面:黒崎沖合20海里、トドヶ崎沖合20海里で1 程度高めのほかは平年並 100m:黒崎沖合40海里、トドヶ崎沖合10海里から1~2 程度低め、尾崎沿岸0海里から樺島沖合0~20海里にかけて及びトドヶ崎沖合40~50海里から樺島沖合40~50海里にかけて1~3 程度高めのほかは平年並 10月 表面:黒崎沿岸0~10海里からトドヶ崎沖合0~20海里付近で平年並のほかは、1~3 程度高め 100m:黒崎沖合30~50海里からトドヶ崎沖合50海里にかけて及び尾崎沖合0~30海里から樺島沖合0~50海里にかけて1~4 程度高め、黒崎沿岸5~10海里付近及び尾崎沖合50海里付近で1~2 程度低めのほかは平年並 11月 表面:黒崎沖合10~20海里及び40~50海里で平年並のほかは、1~4 程度高め 100m:黒崎沖合0~30海里、50海里及び樺島沿岸5~10海里にかけて平年並のほかは、1~8 程度高め	12月 表面:黒崎沖合10海里で1 程度低め、黒崎沖合40海里およびトドヶ崎沖合40~50海里から樺島沖合20~50海里にかけて1~2 程度高めのほかは平年並 100m:黒崎沖合0~20海里からトドヶ崎沿岸0~10海里にかけて平年並のほかは、1~5 程度高め	予報期間を通して、県中南部沿岸10~70海里でやや高め~高め、それ以外は平年並に推移する。	現況で県中南部海域に形成されている暖水塊は、その勢力を持続しつつ停滞し、親潮第1分枝の張り出しは平年並からやや北偏で推移すると予測される。	県中南部海域に暖水塊が形成されてサンマの南下を阻み、11月下旬まで本県海域にサンマ漁場が形成された。
三陸南部 (宮城県沿岸; 宮城水研発表)	9月には、表面水温は概ね平年並みであった。100m 深水温は、142°30'E 以東の沖合海域では、暖水波及の影響を受け、平年より2~5 程度高めであったが、これより沿岸寄りの海域では概ね平年並みであった。 10月には、表面水温は概ね平年より2~3 高めであった。100m 深水温は、142°E 以東の沖合海域では、平年より1~6 程度高めであったが、これより沿岸寄りの海域では概ね平年並みであった。 11月上旬には、表面水温は平年より2~3 高めであった。100m 深水温は、142°E 以東の沖合海域では、平年より3~7 程度高めであったが、沿岸寄りの海域では概ね平年並みであった。	11月下旬には、表面水温は14~17 台で平年より概ね1~3 高めであった。100m 深水温は13~17 台で、平年より概ね1~4 高めであり、沖合の143°E 付近では特に高かった。同期の海況としては、牡鹿半島以北では平年より高め、牡鹿半島以南では概ね平年並の水温であった。	142°E 付近の沿岸寄りの海域では、1月に、平年よりやや低めだが、2月には平年並み又はやや低めで推移する。 巨理沖合(38°Nライソ)の143°E 付近の海域では、1月には、平年より低めだが、2月には平年よりやや高めで推移する。 このほかの海域については、1~2月に平年並み又は高めで推移する。	「宮城県沿岸海域の海況予測モデル」を用いて、100 深水温による予測を実施した。(2007年12月について、類似年は1975年、1991年、2000年であった)	浮魚類の11月の水揚状況に「モデル」を用いて、100 深水温について、マイワシ・サバ類は前年比に比べて水揚量が53%・28%と少なくなっていた。また、スルメイカの11月の水揚量は前年比655%で、県内各地で漁獲されていた。

常磐北部 (福島県沿岸; 福島水試 発表)	9月以降50海里より沖合で黒潮系暖水の波及がみられたが、その沿岸への影響は弱く、水温は平年並で推移した。11月には県北部海域から沿岸へ暖水の波及傾向がみられ、水温は100m深では平年並が継続したものの、表面で平年よりやや高めとなった。	本県中南部海域では黒潮系暖水が広く分布するもその影響は弱く、水温は平年並	12~1月にかけては現状並の黒潮系暖水の弱い波及が継続。2月以降親潮系冷水の波及がみられるもののそれらの規模は特異的なものでなく、水温は平年並で推移すると予測される。	福島県周辺海域の海洋観測による100m深水温の統計解析結果から、現状の平年並の海況が継続すると予測された。また、現在冷水の南下を妨げている金華山沖の暖水塊は、同様な位置に暖水塊が存在した2000~2001年及び2005~2006年同時期の例と同様に2月の季節的な冷水南下に影響しないと予測される。近海黒潮の北限位置が南偏傾向、親潮第一分枝の南限が北偏傾向で推移すると予測されることから、本県沖への特異的な水塊の波及は予測されない。	・ひき釣りによるクロマグロ(メジロ柄)の水揚げは、平成13年以来的好漁であった昨年並であった。 ・秋期シラス漁が好漁となり、11月末までの水揚量累計をここ10年で最も好漁であった平成17年と比較すると、その比は111.4%であった。
常磐南部 ~鹿島灘 (茨城県沿岸; 茨城水試 発表)	9月：海域全体に南下流が卓越し、常磐北部海域から混合水が大規模に流入した。犬吠崎沖での黒潮の南偏は中旬以降解消した。 表面水温：21~27 北部海域「低い」~「平年並み」 南部海域「やや低い」~「やや高い」 100m深水温：10~20 北部海域「やや低い」~「やや高い」 南部海域「平年並み」~「極めて高い」 10月：三陸南部沖の暖水塊由来の比較的温暖な海水が流入した。犬吠崎沖の黒潮は離岸傾向で推移した。 表面水温：21~27 北部海域「やや低い」~「やや高い」 南部海域「やや低い」~「やや高い」 100m深水温：11~16 北部海域「やや低い」~「やや高い」 南部海域「極めて低い」~「平年並み」 11月：犬吠崎沖の黒潮は、10月下旬ころから変動しその後はやや南偏して推移した。 表面水温：16~23 北部海域「やや低い」~「やや高い」 南部海域「やや低い」~「高い」 100m深水温：13~16 北部海域「やや低い」~「やや高い」 南部海域「極めて低い」~「平年並み」	犬吠崎沖の黒潮はやや南偏して東方に流去している。海面から水深100m付近まで鉛直混合が進み、14~16台の様な水温が広く分布している。 表面水温：14~20 北部海域「低い」~「平年並み」 南部海域「極めて低い」~「平年並み」 100m深水温：14~16 北部海域「やや低い」~「やや高い」 南部海域「低い」~「平年並み」	平年と比べると、基本的に平年並み~低め基調で推移する。親潮系冷水南下時には「極めて低い」となる。	12月上旬の海況は宮城県沖の暖水塊に巻き込まれた親潮系冷水が、冷水渦となって常磐北部沖中に存在する。この冷水渦は徐々に本県海域に南下すると予測される。 また、現在の海況は2005年12月の海況に良く似ている。2005年12月から翌年2月にかけての海況は、平年並み~低め基調で推移し、2月上旬には親潮第一分枝の一時的な波及があった。	・1999年~2006年における茨城県のカタクチイワシ平均漁獲量は、9月はおよそ220トン(極端に多かった2004年を除く)、10月はおよそ260トンである。2007年は9月に2トン、10月に8トンと極端に少なかった。 ・2006年、2007年共に本県河川へのシロサケの遡上量が非常に増加した。

各階級の水温平年偏差の範囲

階級区分(出現率)	三陸北部	三陸中部		三陸南部	常磐北部	常磐南部~鹿島灘
		距岸10海里内	距岸10~70海里			
極めて高い(2.5%)	+2.4 ~	+4.0 ~	+6.0 ~	+2.4 ~	+4.0 ~	+4.0 ~
高い(7.5%)	+1.6~+2.3	+2.5~+3.9	4.0~+5.9	+1.6~+2.3	+2.5~+3.9	+2.5~+3.9
やや高い(20%)	+0.7~+1.5	+1.0~+2.4	1.5~+3.9	+0.7~+1.5	+1.0~+2.4	+1.0~+2.4
平年並み(40%)	+0.6~-0.6	+0.9~-0.9	1.4~-1.4	+0.6~-0.6	+0.9~-0.9	+0.9~-0.9
やや低い(20%)	-0.7~-1.5	-1.0~-2.4	1.5~-3.9	-0.7~-1.5	-1.0~-2.4	-1.0~-2.4
低い(7.5%)	-1.6~-2.3	-2.5~-3.9	4.0~-5.9	-1.6~-2.3	-2.5~-3.9	-2.5~-3.9
極めて低い(2.5%)	-2.4 ~	-4.0 ~	-6.0 ~	-2.4 ~	-4.0 ~	-4.0 ~